

令和4年度学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座（前期）
開講科目概要

○対面講座

開講日時 (すべて土曜日)		講座名◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
6月11日	10:30 ～ 12:00	伝承あそびで健康づくりⅠ ◎仁藤 喜久子 (にとう きくこ)	いつまでも元気で好きなことを続けて行くためには、何よりも健康であること、そのためには体を動かすことが一番です。「伝承遊びで健康づくりⅠ・Ⅱ」は運動が苦手な人も楽しめるレクリエーション活動です。日頃運動不足だと感じておられる方に、お気軽にご参加いただければ幸いです。 Ⅰ部：じゃんけん・あんたがたどこさ・けんけんぱ などの身体動作をとおして日頃使っていない体を動かしてみましょう！	無料	20名 (60歳以上の方) (先着)	仙台白百合女子大学
6月11日	13:30 ～ 15:00	伝承あそびで健康づくりⅡ ◎家子 敦子 (かのこ あつこ)	いつまでも元気で好きなことを続けて行くためには、何よりも健康であること、そのためには体を動かすことが一番です。「伝承遊びで健康づくりⅠ・Ⅱ」は運動が苦手な人も楽しめるレクリエーション活動です。日頃運動不足だと感じておられる方に、お気軽にご参加いただければ幸いです。 Ⅱ部：こま・けん玉・お手玉・将棋の駒 などの遊具を使って手指の運動にチャレンジしてみましょう！	無料	20名 (60歳以上の方) (先着)	仙台白百合女子大学
6月25日	10:30 ～ 12:00	進化から見る人間の記憶 ◎池田 和浩 (いけだ かずひろ)	日常のあらゆる面で私たちは自分の記憶を使用しています。意識的にせよ、無意識的にせよ、記憶によって私たちの日常は形作られ彩られています。また、記憶は私たちの人生を左右する指標でもあります。たとえば、記憶は学業成績で測られます。日常レベルでも物忘れが激しくなることは生活の質に影響するでしょう。では、そもそも記憶とはどのように進化してきたのでしょうか。本講座では、進化の歴史を紐解くことで人間の記憶の面白さを堪能しつつ、未来のテクノロジーが人の記憶に与える影響を考えてみたいと思います。	無料	30名 (先着)	尚絅学院大学
7月16日	10:30 ～ 12:00	脳の不思議な世界 ～高次脳機能障害のお話～ ◎高橋 由美 (たかはし ゆみ)	脳卒中や事故の後遺症、発達障害などによる「注意が持続しない」「失敗が多い」「感情のコントロールが難しい」の症状。これらは、『高次脳機能障害』といって、脳の働きによる障害で、麻痺などと違って目に見えない症状故に周囲に理解されにくい障害です。脳の働きをわかりやすく解説し、これらの症状の本質を読み解いていきたいと思ひます。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大学
7月30日	13:30 ～ 15:00	見えるって素晴らしい！ ～認知症予防になる視界明瞭作戦～ ◎丹治 弘子 (たんじ ひろこ)	65歳以上の健康に生活している人へのアンケート調査の結果、全員本を読んでいると回答がありました。他の質問では全員一致の回答が見られなかったのに、本を読んでいると回答した方の多くが図書館を利用していました。これに付随した行動も重要な要素であると指摘されています。(NHKスペシャル「AIに聞いてみた どうすんのニッポン」2017年)。また、違う調査でも眼が見えていることが認知症を回避する要素になると報告がありました。では、これらに必要なことは何かをお伝えしていきます。	無料	30名 (先着)	東北文化学園大学

○オンライン講座（リアルタイム）

開講日時 (すべて土曜日)		講座名◎講師名	概要	費用	定員	実施大学
7月9日	15:30 ～ 17:00	多世帯同居住宅 ～サステナブル(持続可能)な家族のための住まい～ ◎増田 豊文 (ますだ とよふみ)	超高齢化や核家族化にともない、助け合いを通じた家族のあり方が問われる時代になっています。老後の生きがいや経済状況・介護等、万一のときのために備えておくことは大事なことです。ここでは、家族のあり方を大きく左右する住環境について、その効果的な住まい方を、皆さんと一緒に考えていきます。単なる同居ではなく、家族のライフスタイルやライフサイクルに適應した住まい方があるはずで、安心な人生を目的に、家族の枠を超えた一族助け合い住宅を話し合ひましょう！	無料	100名 (先着)	東北文化学園大学
7月16日	13:30 ～ 15:00	新型コロナウイルス感染症の経口治療薬の効果と期待 ◎久下 周佐 (くげ しゅうすけ)	新型コロナウイルスの発生から2年半が経過しました。日常の感染対策とワクチンの接種による予防により一旦は抑えられましたが収束は難しく、いまだ感染拡大の波が繰り返されています。この講座では、生物としての新型コロナウイルスと抗ウイルス薬の開発の背景に触れながら、期待されるこの感染症との向き合い方の変化について、また、今後のパンデミックを起こすかもしれない他のウイルス感染症と科学技術が貢献するその対策について深める機会とさせていただきます。	無料	100名 (先着)	東北医科大学